

中年層の防災イベント 参加を増やすためには、 どうすればよいか

—防災街歩きイベント参与観察を通じて—

日本大学危機管理学部 山下ゼミ

山下秀斗 武田快斗 広田勝也

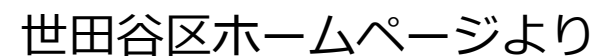
目次

- 1.リサーチクエスチョン 仮説
- 2.世田谷区および太子堂概要
- 3.太子堂地区、防災上の問題点
- 4.参与観察、ヒアリング調査等の基礎調査
- 5.リサーチクエスチョン 仮説
- 6.防災街歩きおよび防災塾での参与観察
- 7.まとめ

仮説

地域の災害特性を体感できる防災イベントは、参加を促すのではないか

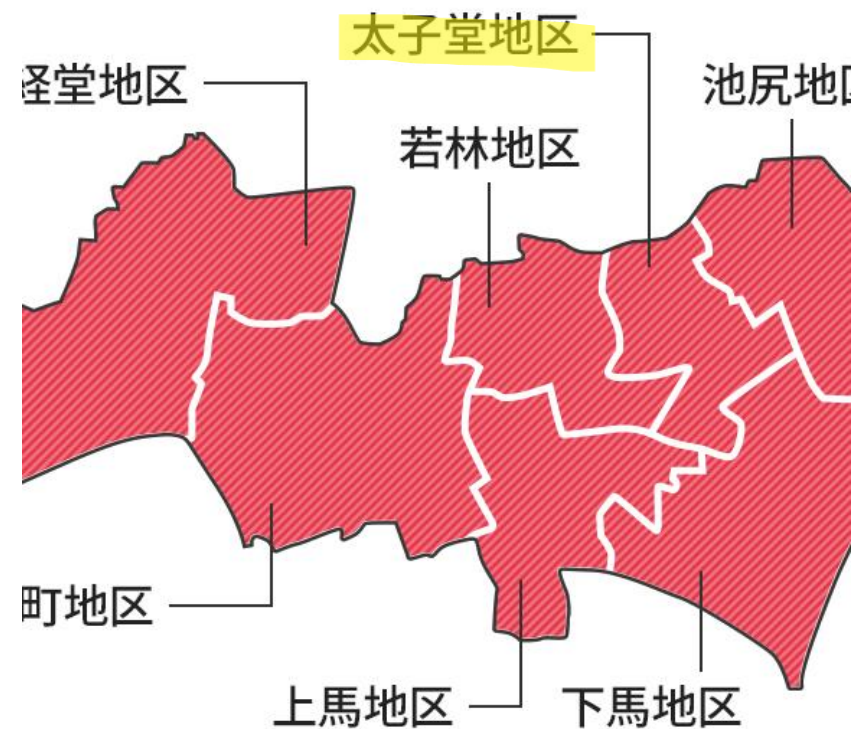
人口：929,133人
(2025年10月現在)



世田谷区太子堂地区 人口

太子堂一丁目	3047人
太子堂二丁目	4257人
太子堂三丁目	4762人
太子堂四丁目	2808人
太子堂五丁目	4022人
合計	18896人

人口分布特徴としては、25～40歳などの若年層、中年層が多い、75歳以上の高齢者が多い。



太子堂地区、防災上の問題点

- 無接道敷地
- 道幅の狭さ
- 不燃領域率65%（目標値70%）
（東京都不燃化ポータルサイトより）
- 老朽建物の多さ
- 避難スペースの不十分さ
（世田谷区ホームページ、フィールドワークより）
- 40代、50代の防災イベントへの参加率の低さ
（参与観察より）



世田谷区 太子堂付近

問題点解決のために

- 主要道路（三太通り）を幅員4mから6mに拡張工事
土地交換や土地区画整備など、7年を要した。（URの事例）
- 「住み慣れた地域コミュニティや風情を壊したくない」などの住民の意見。



これまでに実施した調査（基礎調査）

- 参与観察

太子堂地区合同防災訓練
(2025.6.14)

- ヒアリング調査

太子堂一丁目町会 (2025.7.17)

太子堂地区合同 防災訓練

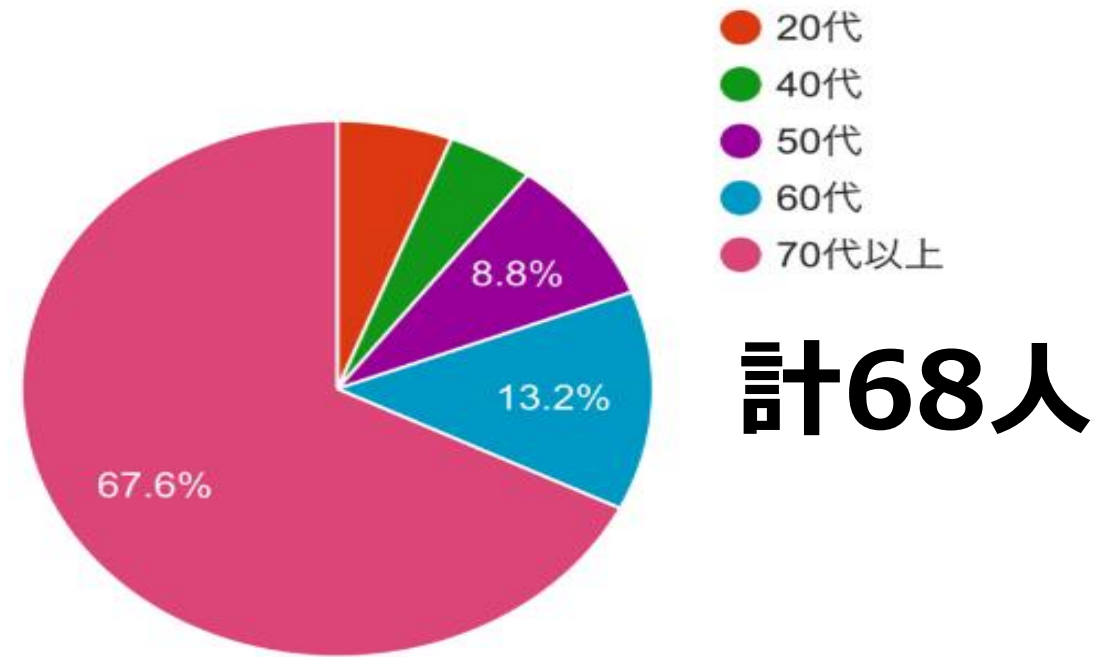
2025年6月14日

場所：太子堂小学校



太子堂地区合同防災訓練

- 高齢者の参加が大半を占めている
- 自治体での参加など、団体での参加が多かった
- 避難場所を初めて知ったなど、の声も見られた



太子堂地区合同防災訓練
(2025.6.14)

アンケート集計結果 あなたの年代より

太子堂一丁目町会ヒアリング調査

2025年7月17日 太子堂一丁目町会にヒアリング調査を実施

- 年齢層40～50歳など中年層を指標にしたい
訓練参加状況が低い
- 避難所に頼らず、在宅避難を進める方針
- 避難所運営訓練に力を入れたい
- 避難所での食料の不十分さなどの知識を住民に知ってほしい



基礎調査でわかったこと

- 訓練では40～50代の参加が少ない
- 町会では、40～50代の避難訓練参加を推進したい方針

→よって、40～50代に焦点を当てておくべき

リサーチクエスト

中年層の防災イベント参加を増やすためには、どうすればよいか

仮説

地域の災害特性を体感できる防災イベントは、参加を促すのではないか

仮説をたてた理由

太子堂地区は、狭隘道路や木造住宅の密集により、災害時の危険性が高い地域である。

しかし、これらの地域特性は資料やハザードマップだけでは実感しにくい。

40代、50代の参加が少ない。

→そこで、街の危険性を実感できる防災イベントへの参加が危機感と周知につながると考えた。

(太子堂地区防災塾 街歩きイベントへの参与観察へ)

この問題の重大性

**40代・50代の参加は、
自身の防災力向上地域防災力の向上に加え
防災情報を地域全体に浸透させる起点となる。**

**→防災イベントにおける40代・50代の参加促進は、最も効率的な周知戦略の一つである
(消防庁, 2020)**

40代・50代が防災の「周知役」として 最適な理由



この問題の重大性

- ・ 40代、50代は避難所運営、要避難者支援などの実務的役割を担う世代であること。
- ・ 子供に周知をしやすい世代であるため、家族全体や地域のコミュニティ間の中での防災意識や行動に影響を与えるため

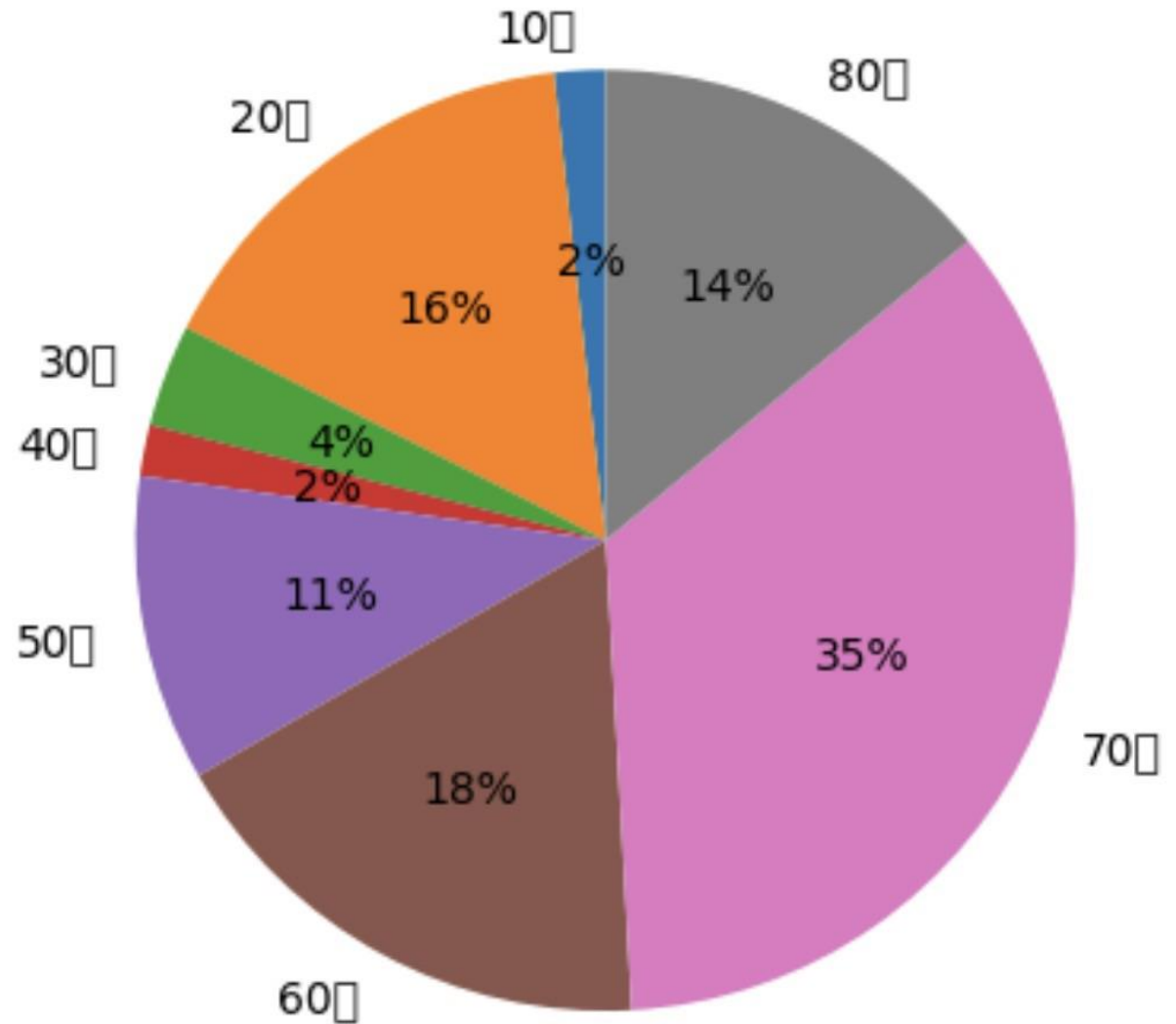


太子堂地区防災塾 (2026.1.17)

概要 参加人数 (59名)

70代	約35%
60代	約18%
80代	約14%
50代	約11%
40代	約2%
30代以下	ごく少数

→参加者の約7割が60代以上
中年層は、全体の一割強にとどまる。



太子堂地区防災塾アンケート 世代より

街歩き流れ

9 : 00 集合、スタッフミーティング

9 : 15 参加者受付開始

9 : 30 防火防災部会会員挨拶

9 : 31 趣旨説明（街歩きをする意義について）、準備体操

9 : 40 街歩き開始

街歩き流れ

10 : 20 三茶しゃれなあど着

10 : 30 身近なまちづくり推進協議会 会長挨拶

10 : 31 趣旨説明②

10 : 35 振り返り（グループワーク）開始

11 : 00 振り返り内容の共有（発表）

11 : 25 山下先生の公表（首都直下地震など首都圏で起こりうる災害について）

11 : 55 地域振興課長挨拶

11 : 58 防火防災部会会長挨拶

街歩き（アンケート調査）

【基本属性】

1. 性別
2. 年齢
3. 職業
4. 職業（その他・自由記述）

【防災塾（防災イベント）への参加状況】

5. 今回の防災塾に参加したか
6. 昨年度の防災塾に参加したか
7. 2年前の防災塾に参加したか
8. 3年以上前の防災塾に参加したことがあるか

街歩き（アンケート調査）

【イベント中の学び・意見交換】

9. 防災塾において十分な意見交換ができたか

【まち歩き・体験内容】

10. 今回歩いた地区

11. 今回のまち歩きで印象に残った場所（自由記述）

【防災意識・行動】

12. 現在行っている災害への備え（自由記述）

13. 今後取り組みたい災害への備え（自由記述）

街歩き（アンケート調査）

【今後の参加意向】

16. 今後、同様の体験型防災イベントがあれば参加したいと思うか

17. その理由（自由記述）

【自由意見】

18. 防災イベント全体に対する自由意見・要望（自由記述）

街歩き（印象に残った点より）

- ・坂道が多い→荷物や車椅子があると移動が大変
- ・道が狭くて複雑→道の正確な把握や、標示が必要
- ・トイレの数が少ない→簡易トイレなど準備が必要
- ・避難or在宅避難の選択→判断力、想定が必要
- ・障害物が多い→日頃からの把握が必要

→地域固有の災害のリスクを具体的に実感したことを示唆している

（アンケート調査 印象に残った点 より）

街歩き（今後の備えより）

防災用品や食料

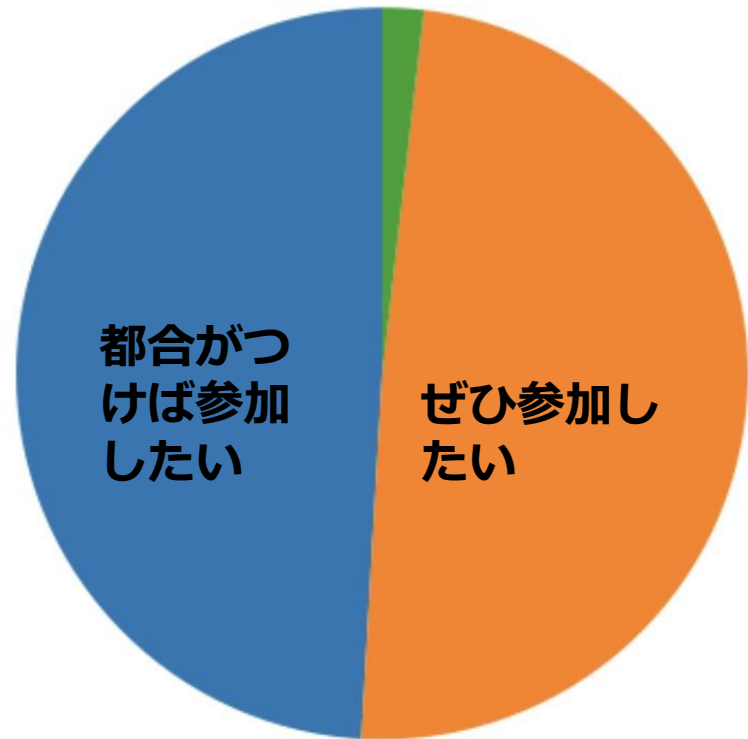
水の備蓄

家具転倒防止

を今後行いたい。

→今後の具体的行動につながる回答が多く確認できた。

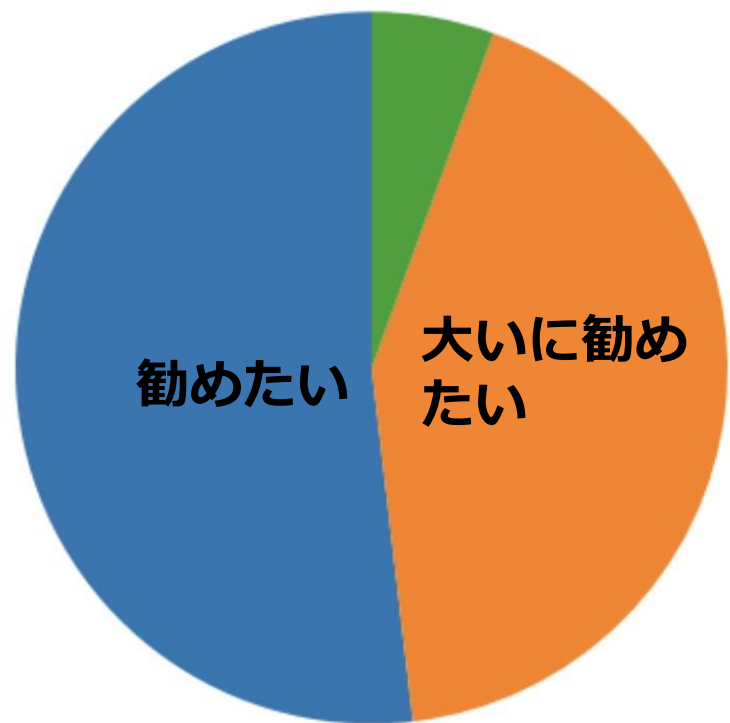
街歩き（今後同様のイベントに参加するかより）



ぜひ参加したい 27人
都合がつけば参加したい 27人
どちらともいえない 1人

→イベント体験が再参加の意欲につながっている

街歩き（周囲に勧めたいかより）



大いに勧めたい	23人
勧めたい	28人
あまり勧められない	3人

→肯定的回答 約94%

街歩き （周囲に勧めたいかより）

理由

- ・自分の住んでいる地域の危険性を具体的に知ってほしいから
- ・防災は、一部の人だけでなく、多くの人に関心を持たないと意味がないから
- ・実際に体験しないと、危険性や必要性が実感できないから
- ・自分一人の備えだけでなく、地域で助け合う必要性を感じたから

アンケート調査から導くポイント

参加者に起きている変化

- ・地域の危険性を**実感**
- ・防災備蓄、家具固定などの**今後の行動を意識**
- ・**再参加**、他者への**推奨意欲**が高い

体感→自分ごと化→行動、参加意欲

他の年代との比較 （共通点）

- ・地域の安全には興味、関心がある
- ・実際に、見て体験する防災には効果がある

他の年代との比較（違う点）

- ・70代等

時間的余裕があり、町会などとの接点が多い
対面型、従来型の防災塾に参加しやすい

- ・中年層

仕事、家事で多忙

目的が明確、生活に直結しないと参加しにくい
情報収集はSNSが中心

アンケート調査から導くポイント

現状の課題

参加者は、60代以上が約7割
中年層は約13%と、参加は少なかった。

あまり勧められない（3人）

→参加のしやすさ（時間、体力、大半が町会関係者である）

結論 （仮説への答え）

地域の災害特性を体感できる防災イベントは、参加を促すのではないか

体験型のイベントは、防災意識の向上 + 参加意欲の喚起に有効

ただし、中年層に広げるには参加しやすさが鍵

提案（中年層に効かせる具体案）

- ・短時間化：30分～60分（今回の防災塾は3時間ほど）
- ・生活同線化：
通勤路、買い物ルート等で危険箇所を実感
- ・波及活用：
参加者の「周囲に勧めたい（約94%）を口コミ
導線にする
- ・祭りなど、多く参加が期待できるイベント
- ・SNSなどの情報を増やす

最終回答（RQへの）

中年層の参加を増やすには地域の
災害リスクを短時間で、
生活に直結させて体感できるイベ
ント設計にすることが有効である。

参考文献

- 『太子堂・住民参加のまちづくり 暮らしがあるからまちなのだ！』 梅津政之 著 学芸出版
- 世田谷区町内人口
<https://www.city.Setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/012/005/d00161674.html>
- 東京都 総務局統計部『区市町村別将来人口推計（令和5年3月公表）』
<https://www.toukei.metro.Tokyo.lg.jp/jsuikai/js-index.htm>
- 太子堂3 丁目UR都市機構
<https://www.ur-net.go.jp/produce/case/case025.html>
- （公財）東京都防災・建築まちづくりセンター
- 「民間建築物の再建築に関するQ&A」
<https://www.Tokyo-machidukuri.jp/>

最終閲覧（2026年1月21日）

不燃領域率とは

市街地大火の危険性を判定する上で重要な指標で、市街地の「燃え広がりにくさ」を表すもので、建物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出します。

通常の家屋

※建築基準法上の道路に2m以上接している

無接道家屋

※建築基準法上の道路に接していない

